

学会レポート（1）

第9回日本中医学会学術総会に参加して

はり・きゅう 仁愛堂 古川順一



ツイート

いいね！ 58

日本中医学会は、中医学の発展、普及を目的に学術集会の開催、教育活動、学術情報の発信、また国内外の学術関連団体との交流を行っている団体です。毎年秋に週末の2日間にわたって開催されている学術集会（第9回日本中医学会学術総会）の模様をお伝えします。

テーマは「次世代につなぐ中医学」



写真1

1日目の注目は

林伯欣先生の招待講演「“辯證論治”その概念の再認識および未来展望」

さて、1日目に注目したのは、招待講演①の台湾中國醫藥大学の林伯欣先生による「“辯證論治”その概念の再認識および未来展望」です（写真2）。弁証論治は、現代中医学の臨床においてその中核をなす基本的な考え方であり、必須の概念といえます。



今週号のPRの部屋はこちら

- ## ● 入江FTシステム & 横山式 熱鍼療法セミナー

- ヒューマンワールドのセミナー
 - あはき師のための在宅ケア実践セミナー【大阪】
(2019/10/26,27)

★ヒューマンワールドの
DVDなら→→→→→ こ
ちら

★あはき求人情報
鍼灸マッサージ師・柔道整復
師の求人情報は>>> [こちら](#)

- あはきワールドの学割
(0円) & わかば割
(50%OFF)

★ 詳細は»» [こちら](#)

- 投稿原稿募集
週刊『あはきワールド』では、研究レポート、論説、症

講演では、まず弁証論治の歴史を振り返り、現在では「弁証論治」という言葉が形式的に使われすぎていて、臨床において中医学の治療効果を十分に再現できていないと指摘しています。その上で「辯」「證」という言葉の意味を再認識して

て臨床において必須である四診によって得られた情報と、生理学、病理学の広範な知識を整合して、病因病機をきめ細かく把握したうえで、理・法・方・薬（穴）に従って論治していくことが重要であると説きます（写真3）。そして林先生は、弁証論治の概念が治療者側に正確に理解され、合理的に実施されにくい、いくつかの問題として、治療者側の技術、経験、気付き、感覚から身体的状況の強化をあげていることは特筆できる内容だと感じました（写真4）。

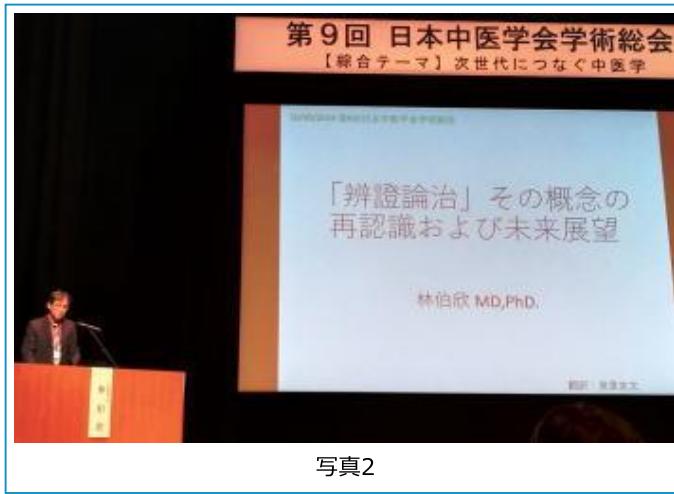


写真2

例報告、エッセーなどの投稿原稿を募集しています。

★詳細は»» [こちら](#)

■ヒューマンワールドのメールマガジン「あはきワールド」は毎週水曜日に配信しています。

★配信登録は»» [こちら](#)

治療効果を上げるための戦略

- ・実施のポイント: 病機を探す(三因制宜: 天文、地理、人事)。
- ・一人の患者にひとつの病機あり; 診察ごとに、唯一無二である。
- ・机上の理論や名詞に縛られない(原則≠答案)。
- ・医者間の能力差を埋めること: 中医学の教育訓練規格を標準化する、中医専門医の基本的な治療効果を上げること。
- ・医者個人の誤差を小さくすること: 感覚の感度と安定性を上げる、身心鍛錬、道術合一、医学の専門性と経験を強化する。
- ・正しい辨證論治を導き出す: 診断結果によって決定し、症状群で分類したりや證型対応だけで決めない。
- ・この世界には決まりきった方はないし、無理に流派に分ける必要もない; 方は病機に沿って変化し、病機があるところに治療法や処方がある。

写真3

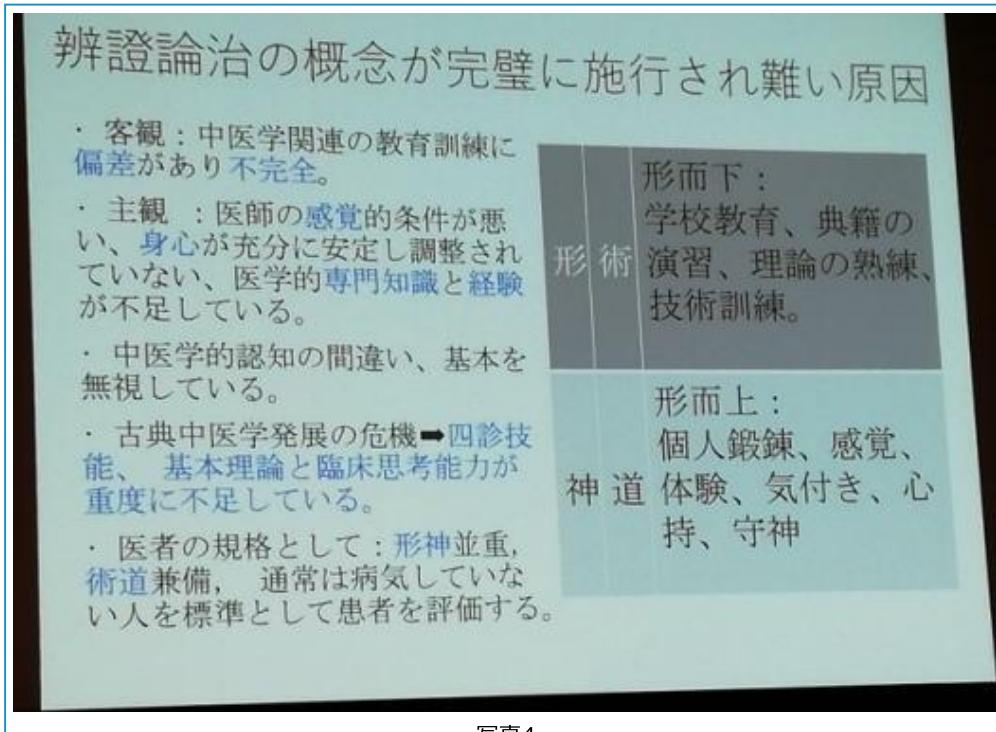


写真4

そのほか、1日目では、毎年行われる一般の方も聴講できる市民公開講座で、家庭薬膳の講演があり、また午前中には中医学の初学者向けの講座として、ワークショップ「みんなで弁証推論」などの講座が開催され盛況を得ていました。

2日目の一般演題で興味を引いたのは

福岡豊永先生の「頸椎ヘルニア手術後の対する接経取穴法の有用性」

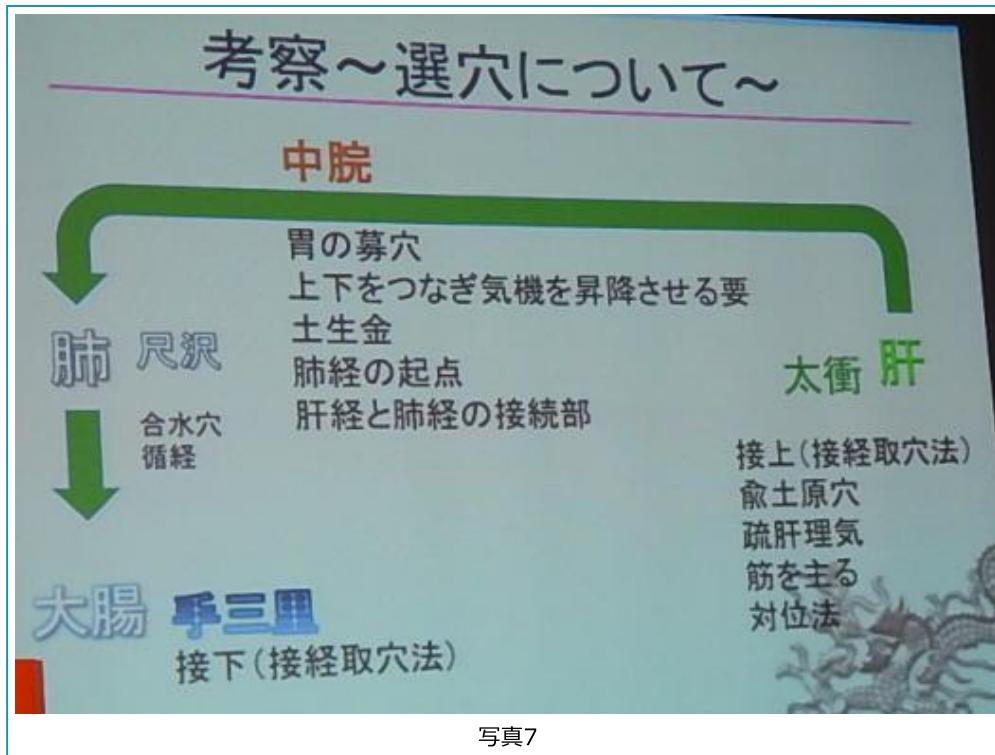
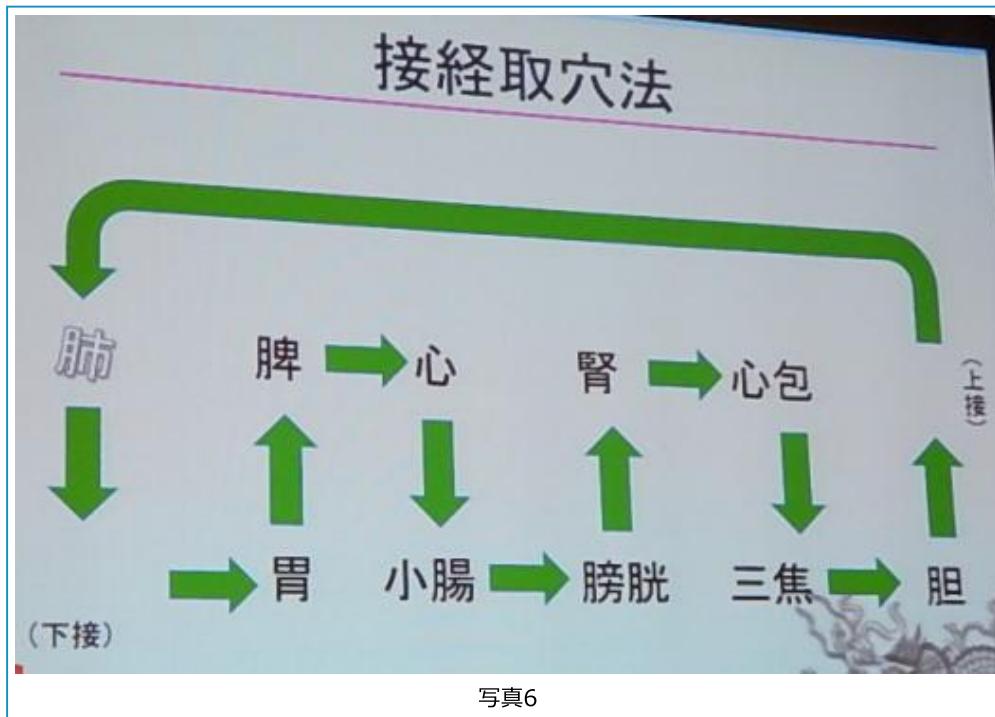
2日目は、午前中から一般演題で、鍼灸に関するものは4題ありました。その中で福岡豊永先生は「頸椎ヘルニア手術後の対する接経取穴法の有用性」（写真5）において、頸椎ヘルニア手術後右上肢の運動麻痺、特に前腕の屈伸動作ができない症例について、接経取穴法による治療で速やかに麻痺が改善して、肘関節屈伸が可能となり、患者さんがゴルフに通えるようになったという著効例を紹介されました。



写真5

症例では、患者さんはある朝起床時に突然右上肢が動かなくなり、MRI検査で頸椎4/5のヘルニアと診断され、手術後、疼痛はなくなったものの右上肢の運動麻痺が残りました。接経取穴法では経絡の流注の順序に従って原因経絡（本症例では肺經）に対して、接上（肝經）と接下（大腸經）の経穴を用いて治療するというものです。弁証では、右肺經の経筋病としたうえで、肝氣鬱血もあるという判断で、右尺沢、左太衝（対側刺法）、右手三里、中脘で舒筋活絡、疏肝理氣を促すというものです（写真6、写真7）。3診目で右肘の屈曲が少しできるようになり肘や肩にも力が入るよう

になり、5診目ではMMT4で楽に屈曲ができるようになり（動画で回復過程を1診目から紹介）、その後ゴルフが可能となるまでに回復したとのことでした。接経取穴法は、臟腑論と五行の母子関係による補寫ではなく、『靈枢 経脈論』の経絡流注順位の考え方を基礎とし、原因経絡の巡経経絡上の上下に応用取穴して気血を通すという方法で経絡筋病証に対して有用性の高い方法だといえるでしょう。



今回の鍼灸実技講演は劉恩明先生の「不思議な毫火針」

大会では、毎回鍼灸の有名な臨床家を招いてその実技を背景にある考え方や実際の手技の様子と共に細かく供覧してもらう「鍼灸実技講演」があ

ります。今回は、香港の劉恩明先生の「不思議な毫火針」と題する講演でした。一般的に火針に用いられるはりの材質は、タンクスチンとマンガンの合金が多く、細いものでは0.25mmから太いものでは、1.5mm前後のものがあります。

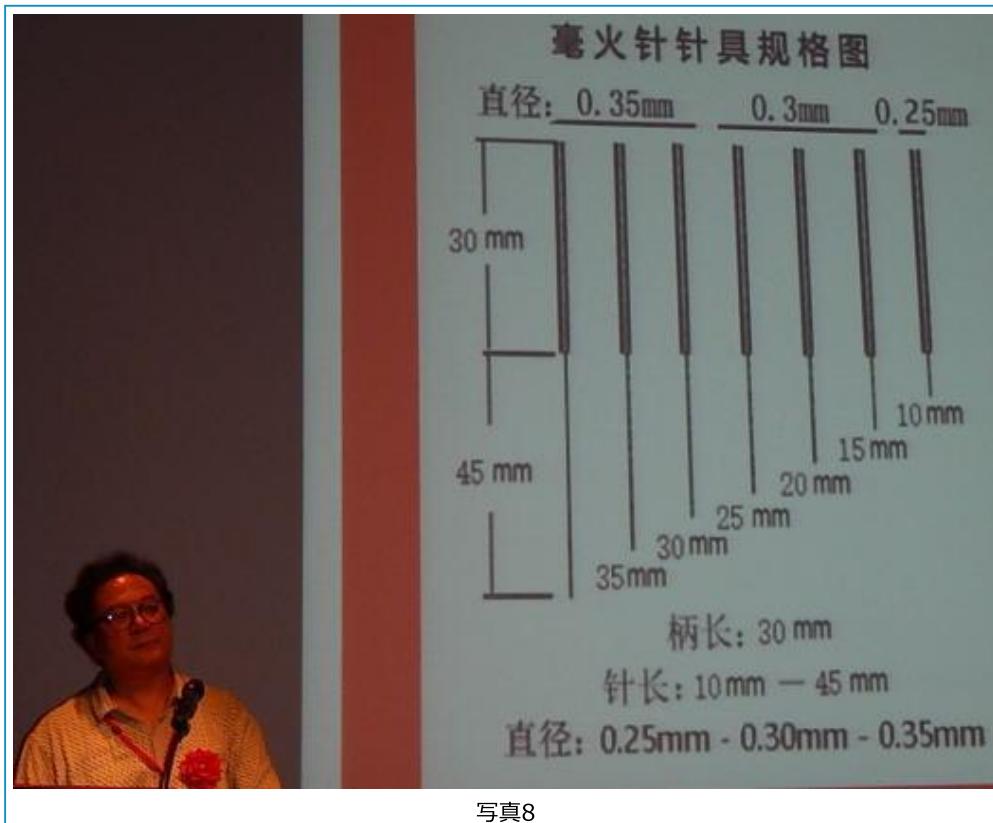


写真8

毫火鍼の特色な効能

1. 毫火鍼は「一鍼三氣」ができる
「3氣」とは、「得氣」、「留氣」、「氣至病所」の意味である。

写真9

劉先生は、「毫火針」の創始者であり使用するはりもご自身で開発されたようです。材質はステンレス合金で、0.25、0.3、0.35の直径サイズで、長さは10mm～45mmまでの7種類があります。通常の火針にくらべて太さは細いことが分かります

(写真8)。劉先生の考えでは、毫火針の本質は灸法であり、毫火針は、

直接皮膚の中に瞬時に熱エネルギーを送り込み、より深部よりの熱エネルギーで生体に反応を起こさせるもので、これを「内灸法」と呼んでいます。毫火針では3気を重視します。つまり、刺鍼の際に必ず「得氣」がえられ、抜鍼の際に「留氣」ができその感覚を皮膚内に留めて、気を病所に至らしめる、「氣至病所」の作用があります。また、中医学では様々な病証はよく、軟部組織や筋肉に痙攣、粘着、過緊張、こりなどの病態を引き起こしますが、毫火針では、筋肉の張力障害を正常な状態にし、気血がスムーズに流れ気滞血瘀の状態を速やかに改善できるとのことです(写真9)。

毫火針の実際の刺鍼では、弁病を重視し、弁証および補寫を行いません。病位のある局所に直接刺鍼するのが特徴です。阿是穴が基本となるが、なるべく短鍼、少数穴で治療効果を出すようにするために病位の深浅

について常に皮・肉・筋・脈・骨を目標に適切な操作を施し、いかに身体に「内灸法」が効果的にできるかがポイントとなると説明されていました。



写真10



写真11

さて、実際の実技では、両足部の冷え感を常に感じるというモデル患者さん（女性）に毫火針の治療をすることになりましたが、まず、仰臥位で冷えの感じる左側局所に手技をしますが、一般的な火針のように即刺即抜ではなく、刺入後数秒留鍼してその後拔鍼、局所を接経されていました。患者さんにあまり感覚の変化がないので、さらに左足三里に手技をしました（写真10、写真11）。筆者も実際の臨床で火針はよく使いますが、確かに一般的な火針よりは刺激量が少なそうな印象がありました。劉先生は、特に疼痛、腫脹、潰瘍、萎縮、痙攣、水腫などの病態を速やかに改善できることを強調されていましたので、火針をよく使う者としては、機会があれば自分の臨床でも実践してみたいと感じました（写真12、実際の毫火針：中国のネット販売サイトで購入可能）。



写真12

国際交流ST（ステーション）を牽引した台湾・台北市中医師公会の代表団

ところで、学会では海外の研究者、臨床家による交流・発表も盛んに行われています。「国際交流ST（ステーション）」というセッションが毎年設けられ、台湾、香港、中国を中心とした先生方の発表があります（写真13、台湾・台北市中医師公会の代表団）。



写真13

今回は、5題の湯液関連発表があり、鍼灸関連は1題で台湾の楊仁鄰先生の「前立腺癌合併骨転移疼痛における刺鍼治療病例報告」では、下背部の癌性疼痛と下肢無力、歩行困難の病因病機を「不通」と「不榮」という概念に集約して捉え（写真14）、「調和気血、以通止痛」の治療原則のもと、弁証配穴と巡経取穴（写真15、写真16）による治療で疼痛緩解を得られた症例を提示されました。また、今後の討論として癌性疼痛時に処方されるオピオイド、エンドルフィン系の鎮痛薬による副作用（便秘、恶心、嘔吐など）に、鍼灸を用いることで疼痛緩和と副作用緩和が期待できるのではないかということが示されました。

「不通」と「不榮」は 癌症疼痛の主要病機

【**不通**】：人体の通路に物質を運行する阻害の不通。
疾病発生、発展と変化により、渋滞と閉塞により不通となる。

【**不榮**】：營養物質が不足。
通路系統中に運行する物質の量が減少し、或は機能の減弱により、機体に濡養を失う病態となる。

氣滯、血瘀、寒凝、濕阻、痰飲などの病機により、
持続して相互に作用し癌毒となる。全身の經脈凝
帶、氣血運行が傷害され、疼痛となる。

(寧雲峰中医薬治療癌痛研究思路和方法初探、中医藥管理雜誌、2007.15(60-61))

写真14

鍼刺処方の解析

経絡流注で、足太陽膀胱經は腰背部を流注するので、
腰痛にその局部と遠隔の經穴を組み合わせ取穴する。

- 大腸俞、小腸俞、委中、承山→腰部経絡を調整する。
- ▶ 委中穴：太陽経合穴、足太陽經氣及び下肢経絡を調整する
 - ▶ 承山穴：経絡を疏通し、この2穴で下肢筋肉病変を治療する。
- 俞穴は臟腑経絡気血が流注している体表の特殊部位で、双方の調節作用をもつ
- ▶ 大腸俞と小腸俞は気機を調整し気血の流注を改選し、「通經活絡止痛」作用をもつ。

写真15

鍼刺処方の解析

足少陽胆経は腰部両側を流注する。

- 環跳穴：太少陽両経の交会穴で、下肢足少陽
経氣と足太陽経氣を調整する要穴。
- 腰痛は、腿部症状を随伴し、或いは腰痛により
少腹及び肋骨弓に及び、筋会である陽陵泉穴
を用いる。

合谷穴は、身体の感覚を調整し、疼痛にお
ける大脳皮質の感覚を抑える

写真16

残りの1題は、台湾の李坤城先生の「華陀五禽経絡気功護眼調理功法」と題し有名な経絡気功法である五禽戯（虎・鹿・熊・猿・鳥の動物の動きを気功法にしたもの）を応用し、目の保養を図るというもので実演をまして紹介していただきました。身体の上下・左右・前後・左右回旋動作に眼球の動きを同調させていくというものです（写真17）。



作用：右目を限界まで開き、その後緩める。肝胆二經
及び帶脈任督二脈の計5経脈を運行させる。

作用：足少陽胆経、足厥陰肝経及び帶脈を運行さ
せる。目の内部を活性化させ、眼圧を調節する。

23

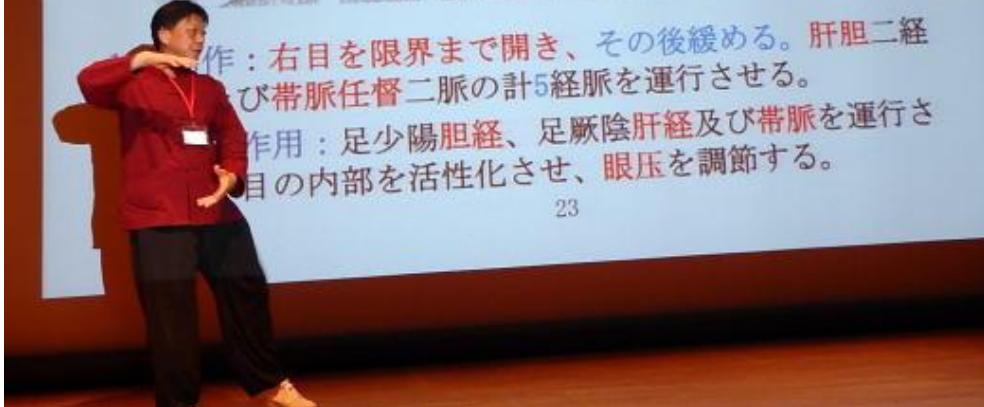


写真17

今大会初めて実施された 海外の中医学教育機関に学ぶ日本からの留学生による発表

さらに、今大会で初めて海外の中医学教育機関に学ぶ日本からの留学生による発表が加えられました。これは、会長である平馬直樹先生が発案され、近年日本から中国や台湾の中医学の高等教育機関に留学する学生の増

加に伴い、研究から現地事情などに至るものに関して発表の場が設けられたことは非常に有意義なことだと考えます。

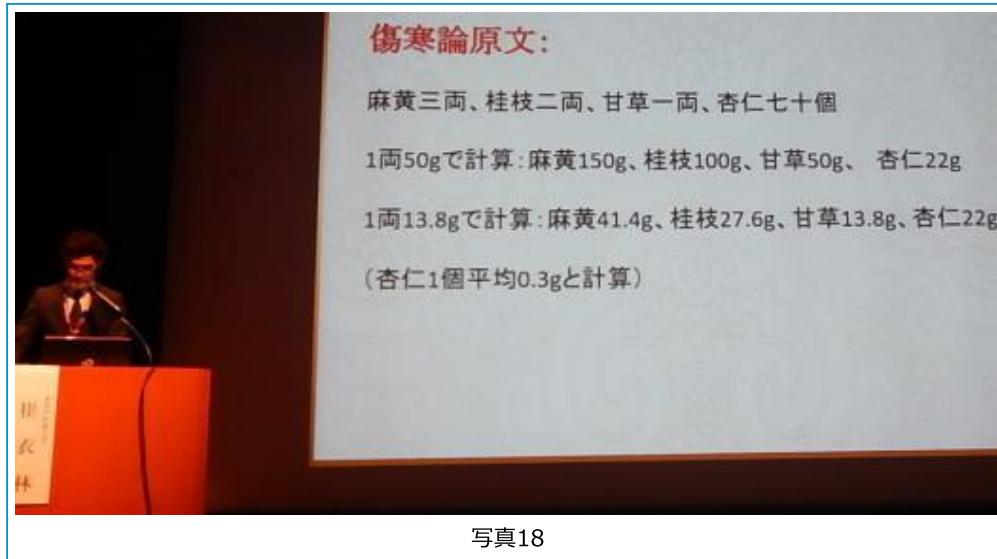


写真18

北京中医薬大学大学院の崔衣林さんは「傷寒論の一両に対する日中研究比較」と題して傷寒論の一両に関して度量衡上の量の変遷を詳細に比較検討した内容を発表してもらいました（写真18）。もう1題は同じく北京中医薬大学大学院の岩田秋佳さんの「鍼刀と翼口蓋神経節の刺激によるアレルギー性鼻炎の治療」で、日本ではあまり馴染みのない「鍼刀」という特殊なはり（鍼尖がマイナスドライバー状の形をしたもの）を用いての治療紹介でした。治療は頸部、迎香穴、下関穴（翼口蓋神経節）に直径、長さの異なる鍼刀を用いて刺鍼、刺激するもので（写真19、写真20）、相当な強刺激のように感じられ、また特に翼口蓋神経節は下関穴深部に位置するため手技には熟練をようするものと思われますが、現地中国では、主に整形外科的疾患からアレルギー性鼻炎の軽減などに効果的に用いられているということでした。

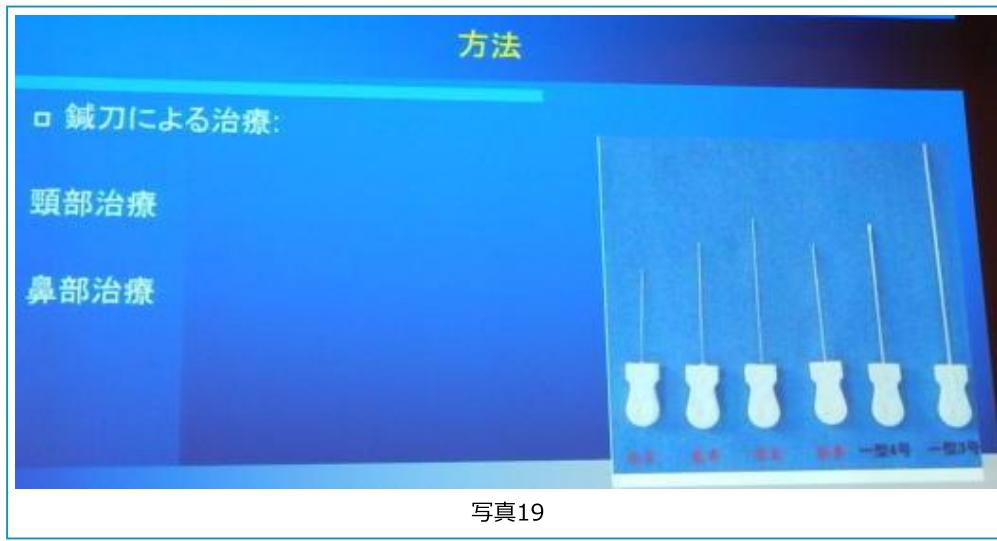


写真19

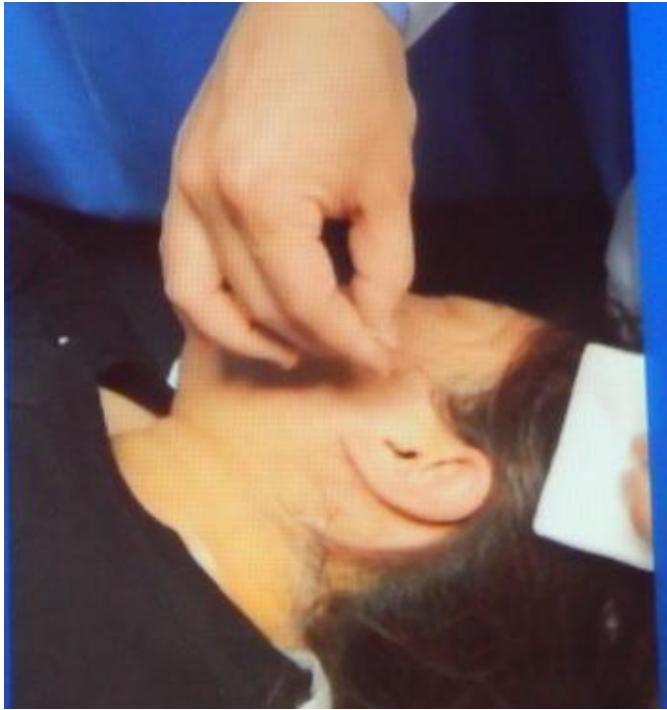


写真20

全体的な感想は、

年々高まる中医学の力

強い趨勢と新しい知見などを見て肌で感じることの多い2日間でした。今後とも学会が中医学を研究し臨床を行う方々の道標となり、発展していくことを期待してやみません。

ツイート

★この記事に対するご意見やご感想をお寄せください»» [Click Here!](#)

[HOME](#)

HUMAN WORLD
ヒューマンワールド

[書籍](#) | [DVD](#) | [CD-R](#) | [セミナー](#) | [あはき求人情報](#)

株式会社 ヒューマンワールド

東京都西東京市田無町7-18-4 TEL.042-444-3678 FAX.042-462-1231

Copyright(c) Human World Co.,Ltd. All rights reserved.